

保育内容演習・健康	2年 後期	演習1単位	担当教員名	齋藤 寧
	卒選 幼必 保必			
① テマ : 子どもたちの心と体の健康を培うために必要な知識と実践力を身に付ける。 ② 目標・子どもの健康をとらえる視点や健康課題について考える。 ・子どもの生理的発達や心身の発達について理解を深める。 ・基本的な生活習慣獲得や安全生活、遊びの保障について理解を深める。 ・領域「健康」のねらいや内容を理解し、保育者としてその役割を自覚し、保育実践していこうとする。				
授業の概要： 社会の変化に伴う近年の子どもたちを取り巻く厳しい状況を踏まえ、保育所や幼稚園において、子どもたちの心と体の健康を培っていくためには、どのような生活を大切にしていけばよいか。保育環境や具体的な援助としては何を大切にしていけばよいか、保育実践者としての理解を深め、実践できるようにする。				

授業計画

コマ(回)	項目	内容
1	第Ⅰ部 子どもの健康をとらえる視点	子どもの健康な育ちを保障するために 1 子どもを育て、子どもの健康を支えていくのは誰から育てる者へ 2 育てられる者から育てる者へ 3 乳幼児期の子どもの「健康な育ち」を保障する 4 保育のガイドラインが示す、健康を育む視点
2		健康な子ども、元気な子どもの姿とは？ 1 赤ちゃんの体型のイメージ 2 生涯の各時期の健康観とその保障 3 子どものからだと大人のからだのそれぞれの特徴 4 子どものからだの特徴と保育の視点
3		子どもの全面発達と、現代っ子の健康課題 1 全面発達の保障とは 2 子どもの健康をとりまく現状 3 現代っ子の健康課題と対応策 4 子どもの健康を支える国際基準とは
4	第Ⅱ部 大人も子どもも整えたい、生理的発達の保障	生活リズムの獲得 1 生活リズムの獲得の重要性 2 ヒトの睡眠のさまざまな法則 3 子どもの生活リズムとその課題 4 自分の睡眠リズムを創っていこう
5		恒温の獲得 1 恒温動物とは 2 高体温児の出現と、その原因 3 仮性低体温児の出現と慢性低体温、その原因 4 高体温児と低体温児が恒温を獲得するために
6		いまだからこそ、五感の獲得 1 五感のこと 2 五感のはたらきとは 3 五感の発達のプロセス 4 五感を育てる際の留意点 5 冒険遊び場と、森の幼稚園
7	第Ⅲ部 心身の発達の概要	未熟から成熟への発達の概要とその援助 1 気づき⇄推測の習慣を身につけよう 2 発育・発達の構成要因 3 未熟から成熟までの発達の主要項目 4 子どもの発達と援助の視点の振り返り
8		子どもの運動発達の保障と体力 1 運動発達の方向性 2 運動発達の分化と統合 3 運動発達の量と質 4 運動発達と子どもの体力 5 乳幼児期の運動発達の保障とは
9		脳の発達と概念の獲得 1 大人概念形成 2 子どもの概念形成 3 健やかな脳が育つための発達の要件 4 子どもとディスプレイ情報機器
10	第Ⅳ部 子どもの生活と健康	基本的な生活習慣獲得の保障 1 基本的な生活習慣の項目と獲得時期の目安 2 基本的な生活習慣を獲得する意味と獲得にともなう効用 3 基本的な生活習慣獲得に関する現代の課題 4 身近な自立からお手伝いへ 5 子どもが基本的な生活習慣を気持ちよく獲得するために 6 社会が支える、子どもの生活習慣の獲得
11		子どもの視点に立った安全生活の保障 その1 1 子どもの身体的特徴と不慮の事故 2 安全管理と安全教育 3 子どもの事故やケガの実態 4 保育者がおこなう安全管理・安全教育
12		子どもの視点に立った安全生活の保障 その2 1 危険という言葉の読み解き方 2 リスクのとらえ方 3 ハザードのとらえ方 4 社会がおこなう安全対策 5 子どもの貧困・児童虐待 6 健康・安全を守るための協働
13		子どもの遊びと生活文化 1 遊びのとらえ方 2 発達にともなう子どもの遊びの変化と大人の援助 3 遊びが促す、心身の発達 4 遊びを豊かにしてくれるきっかけとは 5 四季を楽しみ、行事食を知る 6 食への興味を育て、食文化を伝える保育実践 7 子どもの遊びと生活文化
14	第Ⅴ部 保育実践への活かし方	子どもの健康を支える協働 1 子どもの健康を保障する学びの視点 2 幼保小接続と生涯発達の視点
15		未来を紡ぐ子どもたちの、全面発達の保障 1 絵を描かない子どもたちから推測できること 2 生きる力を習得するプロセスとは 3 幼児の一日の生活モデル 4 主な活動となりうる運動遊び 5 遊びで彩る、子どもの生活 6 子どもにかかわる大人の役割、保育者の役割
定期試験	定期試験なし	
テキスト	演習 保育内容「健康」 井狩 芳子 著 (株式会社 萌文書林)	
参考図書	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書	
教員の評価方法	学習に対する関心・態度(20%)、課題・レポート(80%)による総合評価	
準備学習等履修上の留意点	授業後の課題・レポート、次時の予習	